様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：２５４０６
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０６３５

研究課題名（和文）中国語検定試験の信頼性と妥当性に関する研究

研究課題名（英文）A study on the reliability and validity of the Chinese test

研究代表者
侯　仁鋒（Hou, renfeng）

県立広島大学・人間文化学部・教授

研究者番号：５０５５１２９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：中国語検定は年間約6万人の受験生が利用する大型標準テストである。このテストはどれぐらい正確に且つ公正にその評価の役割を果たしているか、その受験者の最も多い3級を対象にして、古典的テスト理論の信頼性と妥当性の視点から、試験ペーパー・個々項目の検討、模擬テストによる独自の検証、ソフトによる語彙難易度の調査と統計、アンケート調査といった多角の手法で検討を加えた。3年間、6本の論文を学術研究誌に、口頭発表2回で、研究成果を発信した。
中国語検定3級は安定しているとは言いかねる。より良質のテストを提供するために、テストそのものの質的向上はもとより、社会的責任の観点からテストの公平公正の重要性を示唆した。

研究成果の概要（英文）：The Chinese test is a large standard examination in which about 60000 people participate a year in Japan. So what ever did the test play a role in the accuracy and fairness? This research took the 3rd level of examination which have the most number of the examinees as the research object, went on research from the point of view of credibility and impartiality in the modern Chinese examination; based on the analysis of test papers, each question, exclusive to verify the simulation test; took some investigations and statistics of difficult vocabulary level by software and studied with questionnaire survey methods. The research results in 3 years have been published 6 papers.
Through the research, it is hard to say the Chinese test of 3rd level is stable. In order to provide a better quality of the test, whether the test itself, but also the point of view of social responsibility, I recommended that we should consider the fairness and justice to the Chinese test.

研究分野：中国語教育・言語テスト

キーワード：中国語教育　中国語検定　テスト　妥当性　信頼性　公平性　古典的テスト理論

１．研究開始当初の背景

中国語検定試験は 30 数年の歴史があり、多くの専門家の努力により、六つの等級に分けて年に 3 回実施され、年間約 6 万人の受験生が利用する大型標準テストである。このテストはどれぐらい正確に且つ公正にその評価の役割を果たしているかについて、個別の項目に関する研究がわずかにあるだけで、全面的かつ系統的な研究は見つからず、研究がほとんどなされていないのが当初の現状である。

２．研究の目的

このテストはどれぐらい正確に且つ公正にその評価の役割を果たしているか、即ち、試験の内容及びその代表性（妥当性）、安定性や一貫性（信頼性）などを明らかにしようとすることである。

３．研究の方法

「古典的テスト理論（Classical Test Theory)」の信頼性（reliability）と妥当性（validity）の観点に基づき、受験者の最も多い３級を対象にして、3 年間、計 9 回の試験ペーパー・個々項目の検討、模擬テストによる独自の検証、ソフトによる語彙難易度の調査と統計、アンケート調査といった多角の手法で検討を加えた。具体的には以下の通りに進めた。

H24 年度

（1）言語テスト理論を把握し、中国語検定試験 3 級の問題をデータベース化して検討した。

（2）そのうえ、発音の部分について模擬テストを実施して実証研究を行った。

H25 年度

（1）当該年度では、まず「中国語基本語彙使用頻度統計ソフト」を開発し、それにより中国語検定試験 3 級の使用語彙を調査し、試験内部の難易度、異なる試験間の難易度を把握したうえで、その安定性を考察した。

（2）実証研究として、3 級の模擬テストを複数回行い、その結果を今年度に購入した「自動採点読み取り機（OMR)」を使って統計処理し、回答率、各選択肢の被選択率などのデータを取得した。

（3）中国語教師を対象にアンケートを実施した。

H26 年度

（1）当該年度では、引き続き「中国語基本語彙使用頻度統計ソフト」を使って、中国語検定 3 級の使用語彙を調査し、テストにおける級別分布・比率を把握した上、テスト内部の難易度、異なるテスト間の難易度を明らかにして、その安定性を考察した。

（2）実証研究として、3 級の模擬テストを前年度と違う中国語履修者に複数回やってもらい、その答えを「自動採点読み取り機（OMR)」により統計処理して、25 年度のデータと合わせて、3 級試験の問題の質を分析した。

（3）中国語検定 3 級と一部よく使用されている教科書の語彙及び学会が出した初級段階の語彙表との相関性について調査を行った。

（4）国内外の中国語教師を対象にアンケートを実施した。

４．研究成果

（1）筆記による発音の測定についての研究

中国語検定試験 3 級は、筆記試験において 41 問のうち、発音を測定する問題が 10 問もあり、率にして 24.3%を占めているので、発音重視の意図が伺える。中国語の発音の言語構成の規則と日本人学習者の間違いやすい点を出題の基本とした作問は、試験の妥当性が高く維持されていることが分かる。一方、試験の妥当性と信頼性を些か損ないそうなところに 3 点気づいた。1. 漢字語から発音を無視して直接に声調を測る問題は初級者にとってふさわしい形式とは言いがたい。2. ピンイン表記の課題では、中国語にありそう

もない音節を無理やり作り出して、言語構成の規則に反する例が多く見られる。3. 選択肢に変量（要素）個数が多いので何を測ろうとするかが不明確になる。そのため、発音測定の妥当性が損なわれる可能性がある。

（2）試験の性格と位置づけに関する考察

「古典的テスト理論」の考え方及びその実践に基づき、具体的に①妥当性と信頼性、②基準参照テストと集団参照テスト、③客観テストと主観テスト、④間接テストと直接テスト、⑤分離テストと統合テスト、⑥記憶テストと識別テスト、⑦難易度と識別力といった視点から中国語検定 3 級について全面に検討を行い、中国語初心者を対象とする大型試験として何が大事か、どのように測定すべきかなどを示唆した。

（3）選択肢作成についての研究

中国語検定試験（3 級）は、大型試験としてその信頼性の確保や採点の制限などで、多肢択一という客観問題の形式を取らなければならない。このような客観問題の作成は、一見易しそうだが、実際には非常に困難が多いとされている。試験の成否は出題の内容と形式（主に選択肢）の妥当性に左右されるところが大きい。そこで、多数の先行研究を踏まえ、多肢択一の客観問題の作問の基本要領及びそのテクニックを整理し、それに基づいて 3 級の選択肢の妥当性について分析を行った。その結果、適切な選択肢からなる良質な設問が多く、特に課題文は自然な中国語であり、設問ポイントもバランスよく配置されており、形式も安定していることが確認された。しかし、一方で、選択肢の作成において見逃された改善すべき点もいくつかあることが分かった。そこで、その原因と改善策を示唆して、より良い問題の開発につなげようというのが研究の狙いである。

（4）試験の安定性についての研究

この研究では、3 級の 3 年間計 9 回分の試験を研究対象にして、主に統計の手法で得たデータに基づいてその安定性を考察した結果、試験は安定しているとは言いかねる。それはランダム誤差というより、系統誤差によるものである。そこで、原因を検討したうえで、より良質のテストを提供するために、社会的責任の観点からテストの公平公正を保持する重要性を提示した。

（5）日本の中国語教育初級段階用の語彙表についての研究

この研究では、『中国語初級段階学習指導ガイドライン』語彙表の妥当性を考察するために、『高校中国語教育のめやす』語彙表と、また、中国の新 HSK 語彙表（1～4 級）との対照比較を行った。その結果、『中国語初級段階学習指導ガイドライン』語彙表は、対照対象の二つの語彙表と相関性が非常に高く、最も基礎的な語彙を収録しており、しかも、品詞の規定も語形の選択も科学的であり、教えやすい創意工夫がなされていることが分かった。日本の中国語教育現場では、例えば、教材の編纂、テストの実施など、特に初級の段階においてそれを最大限に反映すべきではないかと示唆した。

（6）教科書・検定と中国語教育初級段階用の語彙表との相関性についての研究

This paper compares and studies the word list as learning guidance established by the Japan Association of Chinese Language Education for primary Chinese language teaching. As a credible and suitable one, the word list reflects the most common lexical facts in Chinese language use, and gives due consideration to the requirements of Chinese teaching in Japan. The paper further analyzes a number of

textbooks and a Chinese Test well-known in Japan to investigate the association between the textbooks, the test and the word list respectively. Conclusion: the textbooks demonstrate the word list in various and multiple forms, while the test shows a relatively vague relevance with the word list, seemingly requiring some more stable and unified standards.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　6　件）

①侯仁鋒、試析日本漢語検定考試３級的穏定性（日本中国語検定試験３級の安定性についての考察）、『中国語教育』第 13 号、査読有、2015 年 3 月、PP.16-130、
http://www.jacle.org

②侯仁鋒、申荷麗、対日本漢語教学初級階段詞表的考察（日本の中国語教育初級段階用の語彙表についての考察）、『日中語彙研究』第 4 号、査読有、2014、PP.33-47、
http://leo.aichi-u.ac.jp/~jiten/word-vol4.html

③侯仁鋒、申荷麗、Studies of association between textbooks, test with word list respectively on primary stage of Chinese education in Japan、(『海外華文教育 Overseas Chinese Education』、2015 第４号、査読有

④侯仁鋒、試析日本漢語検定考試３級試題選項的編製（日本中国語検定試験３級の選択肢作成についての考察）、『中国語教育』第 12 号、査読有、2014 年 3 月、PP.136-150、
http://www.jacle.org

⑤侯仁鋒、試析日本漢語検定考試３級語音測試（日本中国語検定試験３級の発音測定についての考察）、『中国語教育』第 11 号、査読有、2013 年 3 月、PP.88-106、
http://www.jacle.org

⑥侯仁鋒、テスト理論と実践から見る中国語検定試験―その３級を中心に、『県立広島大学人間文化学部紀要』第８号、2013 年 3 月、PP.115-129

〔学会発表・招待講演〕（計　2　件）

①侯仁鋒、申荷麗、教科書・検定と中国語教育初級段階用の語彙表との相関性についての考察、中国語教育学会第 12 回全国大会、2014 年 6 月 8 日、大東文化大学

②侯仁鋒、中国語テストのデザインについて―日本中国語検定試験 3 級を例にして―、中国大連外国語大学漢語学院、2015 年 3 月 9 日、中国大連市

（3）〔調査報告〕（計　1　件）

丸山浩明、中国語検定試験の結果分析、『国際交流の継続と異文化コミュニケーション能力向上に関する研究』、県立広島大学人間文化学部、2014 年 3 月、PP.47-48

６．研究組織

（1）研究代表者

侯　仁鋒（KOU, jinhou）
県立広島大学・人間文化学部・国際文化学科・教授
研究者番号：５０５５１２９８

（2）研究分担者

丸山　浩明（MAYUYAMA,hiroaki）
県立広島大学・人間文化学部・国際文化学科・教授
研究者番号：００２３９１６２